
【11月28日】報告 日本ラトビア友情プロジェクト2014

(2014/11/28 金曜日 19:29:54 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2014/11/28 金曜日 19:46:18 JST)

? 報告 日本ラトビア友情プロジェクト2014

日本ボーイスカウト富士地区 川島泰彦? 私達のラトビアとの友情プロジェクトは今年で6回目を迎え、来日したラトビアスカウト9名、ラトビアを訪問した日本のスカウト11名、合計20名の若者たちが友情を育み交流を楽しみました。2008年、来日したガールスカウトリーダー、リエネは日本ファンになり、再度ラトビア大学に入学し、今年6月日本文学の学位を取得、2009年に派遣された具志堅さんは本年派遣のリーダーを引き受けてくれました。このことは私にとりこの上ない喜びでした。スカウトと言っても半数以上が成人ですがチャンスがある毎に再会を楽しみ、フェイスブックで交流しているようです。



? 2014派遣団は具志堅唯さん(リーダー 会社員25才)、黒川麻伊さん(記録係 高校2年)、谷津倉由真さん(映像係 高校2年)、里和健三郎君(会計係 高校1年)の4名でいずれも優秀な若者です。7月28日から8月11日までの2週間にわたってラトビア側が立てたプログラムでキャンプ、カヌーツアー、ホームステイをしたりで大いにラトビアを満喫してきました。出発時の少々不安そうな表情が帰国した時には笑顔があふれた自信満々顔になっていたことが全てを語っているようです。きっと日本とラトビア間交流の主役になってくれることと信じます。



? 以下に滞在スケジュールとスカウトたちの報告文の一部を写真と共に掲載いたしますのでどうぞご覧ください。? スケジュール7月28日 17:20 リーガ空港着
各自ホームステイ先へ7月29日 リーガ観光と日本大使館表敬訪問7月30日 ダウガヴァ川カヌーツアー7月31日(木)~8月2日 バルミエラ
方面 カヌーツアー ローバークャンプ参加8月3日(日) オグレ スカウトミュージアム シルバーウ
ルフと面会8月4日 リーガ スカウト隊と交流8月5日(火) ユールマラ ヨットでシーズスカウトと交流8月6日 リーガ
アポルティニャ国会議長表敬訪問 ラトビア外務省訪問とラトビア大学生と交流8月7日 ライ麦バン工場見学と実習8月8
日 ローバースカウトと交流 8月9日(土) リーガ 送別会 荷造りタイム8月10日(日) Fairwell to Latvia? 8月11日(月
) 08:55 成田着7月30日具志堅 スカウトたちの顔に変化が出てきた。日本にいたときは違い目が輝きイキイキしていた。また、Lieneがリガの街を日本語でガイ
ドしてくれたが、彼女の日本語の上達の速さに驚かされた。ラトビアの人々のいくつもの言語を流暢に操る能力は半端じゃない。学習方法を教えてもらいたい。7月31日黒
川 一日でカヌーの漕ぎ方が見違えるほど上達した。バルミエラのスカウトともたくさん交流できた。皆で見ることができたあの満天の星空は忘れない。ただただ川の流
れに任せて流れていく時間は自分が日本の高校生であることを忘れそうになった。8月5日黒川 ニクスと再会。三年前の私はラトビアで再びニクスに会うなんて想像もで
きなかったがこうしてまた会うことができ、今更だがこのプロジェクトに参加して良かったと思った。海の上から見る夕焼けは綺麗だった。7月31日里和 ボートトリップ
。途中の雨にはさすがにまいったけど、夕食のマカロニと満天の星空で相殺どころか二倍以上満足感があったからオールオッケー。カルビスとロバートととても仲良くな
れた気がする。三隻のボート合体。松の葉が痛いことを初めて知った。8月7日里和 いつになくダービスの顔が少し険しかった。どんな国でも、戦争は必要とされない時
代になった。それでも、あった事実まで消すことはおそらく、永遠にできないことだろう。自分たちは、事実を元に、二度と戦争が起こらない世界を維持しなければなら
ない義務がある。今日は一番真面目になれたかもしれない。8月2日谷津倉 3日間カヌーを漕ぎ続け腕が筋肉痛になった。朝のフリーマーケットは民族衣装を着て踊ってい
る女性が美しく見惚れてしまった。伝統的な物や伝統的な衣装、伝統的な食べ物など、ラトビアの伝統に触れることが出来た。足つぼ公園は思った以上に足に激痛が走
り、自分の不健康さ改めて実感した。8月10日谷津倉 別れの日。リンダとダービスのお母さんが空港まで送ってくれて、ラトビアスカウトのチーフを買った。スカウトだ
けで飛行機に乗るのは初めてで、新富士駅まで送り着けるか不安だった。ラトビアの方たちはとても優しく歓迎してくれた。私も来年ラトビアの方を受け入れる時、精一
杯歓迎してあげようと思う。本当にありがとうございました。講評記録係として文書を作成し4人の感想をまとめていく過程で、二週間をもう一度一から振り返ることが
できた。それぞれの目が映したラトビアは美しいことには変わりはないが、同じ体験にも違う見方があり、それらを一つ一つつなげていく作業は、とても興味深いものとな
った。ただ4人にはラトビアへの愛とこのプロジェクトにかかわっていたいただいた全ての方への感謝の気持ちは共通する。 黒川麻衣?